

令和5年度 第2回三木市部活動の在り方検討会議 議事録（要旨）

1 日 時 令和5年9月29日（金）19:00～20:30

2 場 所 三木市役所 大会議室

3 出席者 委 員

会 長 森田 啓之 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授

副会長 坂田 直裕 中体連代表校長

岸本 博介 スポーツ協会理事長

井上 薫 (公財)スポーツ振興基金理事

石田 親吾 三木市吹奏楽連盟理事

松村 正和 三木市合唱連盟会長

前田 義典 小・特別支援学校校長会代表

生田 淳仁 中学校校長会代表

沖 徹也 運動部顧問代表

大橋 純子 文化部顧問代表

藤枝 広起 三木市連合PTA理事

事務局

本岡忠明教育総務部長、鍋島健一教育振興部長、

手島三知子文化・スポーツ課長、田中智美学校教育課長

山口正明学校教育課主幹、村田政宜文化・スポーツ課主事

杉田博久学校教育課学校指導係長

4 報告事項

第1回三木市部活動の在り方検討会議のまとめ

※別紙①について、事務局より説明

5 協議事項

「三木市の持続可能な文化・スポーツ振興 のイメージ像」について

※資料（ポンチ絵）について事務局より説明

【各委員からの意見】

部活動について

（委 員）

- ・部活動では中体連の大会を目標に活動している。中体連の大会運営も教員が中心で行っている。三木市から部活動がなくなって、誰もいかないとなった時、中体連の大会等に受け入れてくれるのかどうか。現時点では難しい。前へ進むにはどうしたらいいのか。

(委員)

- ・吹奏楽も三木に吹奏楽連盟があり、県の吹奏楽連盟があり、コンクールがある。地域クラブに移ったとしても中体連の大会などに参加できるのか。その仕組みも変えていかないといけない。

(委員)

- 中体連や協会に登録しておけば地域クラブとして参加することは今でも可能である。ただ、部活動の組織がなくなるといろいろな弊害ができてしまう。組織を変えなければならない。

(会長)

- ・今のような学校単位の部活動は数年後には確実になくなる。地域移行について、令和8年度からやるという地域がある。期限は決めていないが徐々にやるという地域もある。時期がはっきりとしていないことが悩ましいところではあるが、移行期がある程度示されてないと先生方はしんどい。来年度から部活動をゼロにして完全に制度を変えるというのは現実的に無理である。徐々にやらなければならない。徐々にというやり方も今活動している子どもたちにデメリットが出ないように考えていかないといけない。

(会長)

- ・「今、しようとしていることは無理だから、部活動に戻るのでは」という意見も耳にする。現状を見ると、部活動を継続するには学校の中での枠組みだけでは無理なので、全国でも積極的に切り離してやっているモデルが増えてきている。元に戻すベクトルはない。中学生の文化・スポーツ活動は学校部活動一択から地域にシフト、いわゆる社会教育、生涯学習にシフトしていくことを前提として、子どもも大人も市民も認識していく必要がある。何年後というのはこれから議論していかなければならない。

地域クラブの活動について

(会長)

- ・地域移行自体はプロセスの話であって、最終的に部活動を移行することだけではなく、広いイメージを共有したほうがよい。委員や市民の方に具体的なイメージを共有する必要があるためにこの資料が作成されている。

(委員)

- ・地域クラブの地域の範囲について、校区単位なのか、市全体なのか、そこまで考えられていないのか。

(事務局)

- 移動のことを考えると校区単位で考える必要がある。ただ、全てを校区で区切ってしまうと人数が集まらないことや施設の問題が出てくる。まだ範囲を区切ったものではないと考えていただきたい。

(会長)

- 地域の範囲については種目によって、また指導者の数によっても変わってくるのが考えられる。

(委員)

- ・ P5について。めざす地域移行イメージがあるが、一人の女性が成長の過程によって進んでいっているイメージで作られていると思うが、活動場所を提供することで、高校や大学で離れていても、三木に戻ってきたときにその場所に来て指導者としてかわるなど、持続的に活動が続けていく形のイメージでよいのか。最終的には、部活動がなくなり地域に移っていくというイメージでよいのか。

(事務局)

→はい。より多くの子もたちの活動を充実したものにしていくためにもこういった形を取れたらと考え、提案している。ただし、ここまでに行くためにはさまざまな課題があるかと思うので、ご意見をいただきたい。

(委員)

- ・ P7について。各自取り組む姿勢にも温度差があるので、この図のように選べるようになるのは大変良いことだが、本当にできるのか。

(事務局)

→種目によってもできる、できないが出てくるかと思われる。活動人口が多ければ、分けることもできるが、活動人口が少なければ一緒に活動する必要がある。

(委員)

- ・ 吹奏楽は団体競技なので、2~3人ではできないので、最低20人くらいが必要。コンクールで上位をめざすという人や単に演奏できるだけでよいという人もいる。人数が少なくなると分けることができないし、演奏の技術によっては一緒に活動することが難しい。

(事務局)

→個人種目ならニーズに合わせて分けやすい。団体種目は人数が多くいるため、めざす目標に合わせて分けるのは難しい。しかし、小学校から大人までたくさん的人数が関わると考えると人数問題の解消につながる。同じ学年でなくても活動を楽しみながら目標を幅広く設定した活動ができるのではないかと。大人の演奏会の中に子どもが入るなど、それぞれの分野でどういったことができるか、ご意見をいただきたい。

(委員)

- ・ 演奏でいうと、楽団と中学校の吹奏楽部とジョイントして一緒に演奏するとかでき、人数も増えてやりやすい。ただ、上をめざす人にとっては物足りないかもしれない。

(委員)

- ・ スポーツ面は野球やサッカーのようにいろいろなクラブがすでにある。文化面では個人とか小さいグループとかではやっているが、大きな団体で活動をしている姿が見えてこない。子どもたちが希望するやりたい種目がなければ作っていくことになるのか。

(委員)

- ・ P6について。小学生の習い事のようなイメージなのかと感じている。これはこれでよいと思うが、すべての種目のニーズに応えるのは無理だと思う。

(委員)

- ・ 生徒・保護者ともに移動方法とお金がかかることを心配している。地域展開になった時に送迎はどうしていくのか。コスト面で市の予算では立ちいかない。

(委員)

- ・三木市は自治体で初めて日本プロゴルフ協会と連携協定を結んでおり、プロに教えてもらう環境ができています。ゴルフ場もたくさんある。三木市ならではの資源を生かしていくのもよい。何でも楽しめるようにマルチスポーツだったり、気楽に参加できる居場所作りになるようなものと、上をめざすにはセレクションでわけることもできる。選ぶ基準として、そういったさまざまなものがあったらいいのでは。

(委員)

- ・一人の生徒がひとつの種目だけに取り組まず、多種目の取組が可能になるのは、いろいろなことが経験できるが、団体種目ではチーム編成が難しいかもしれない。

(委員)

- ・授業が終わってから地域活動をするというのはなかなかイメージがわからない。理想はよいが文化的には分野が細かく分かれていろいろな種類があるし、人材確保が難しいし、生徒もどう選んでいけばよいか難しい。

(会長)

- ・P6にあるが、時間帯等のイメージがわきづらい。

(委員)

- ・小学生もスポーツをやっている。強くなりたいからクラブチームに入ったり、夏休みに合宿に行っている子もいる。それとは別に学校では朝、行間、昼休みとかに児童が集まって自然発生的にスポーツをしている。異学年でしているの、高学年が低学年の子に配慮し、それを見習って、低学年の子が学年が上がると高学年の真似をしたりと成長が見られる。競技も含めて、友だちとするのが楽しいということだと思ふ。ニーズのあるところで小学生が活動できる場があるのはよい。指導者等課題は難しいが、いろいろなスポーツ、文化活動が地域でできるといい。

(委員)

- ・協会としては、競技スポーツの発展、それぞれの種目の試合運営、子どもたちの育成くらいしか関われない。かつては、文化やスポーツの指導者を募ったことがあるが活用までは至らなかった。広く子どもたちを育成する場として教室を開いたり、協力できることもあるかとも思う。コーディネーターの育成をしていかないと市全体では難しい。

(委員)

- ・合唱連盟はほとんどが大人の団体で子どもが入っていけるような形ではない。できればよいのだが、団体も高齢化しており、中学生を入れていくことが可能かどうかはわからない。子どものために何かを作る必要がある。過去に募集をして子どもたちの合唱団を作ったことがある。その時も先生中心にしていた。先生の異動で自然消滅した。指導者をどう育成していくかも難しい。

(委員)

- ・吹奏楽は中学校の連盟もあるので、形式的にはできるかもしれないが、演奏する場となると、大人の中に入ってくるのはよっぽど気持ちがないと入りにくい。団体は楽器演奏の経験者が入ってきているので、何もできない生徒が入ってくることは団体としては難しい。学校では先輩が教えてあげるといった環境があるが、地域ではそこから指導していくことは難しい。

人材確保について

(委員)

- ・子どもにとっては理想的な形だと思うが、これをするためには先ずは人材確保がいる。各スポーツ団体ではなかなか難しい。子どもに専門的な分野で指導が受けられるようにしないといけないし、楽しむ部分も必要であるし、よけいに人材の確保が難しい。ある程度共通理解しながら指導者の確保、指導者の更新ができるようにしないといけない。

(委員)

- ・ゴールの姿はよいが、ここに至るまでには現状、課題がたくさんある。中学校では外部指導員に入っている。専門的なサポートがあるので競技経験のない教員は助かっている。多くは教職員退職者、その競技に打ち込んでいる学生。市の予算があって年間の活動時間は決まっているが、中にはお金がなくてもよいと、来ていただいている方もいる。少し予算を補ってもらえば、地域活動に移行していくことができるのではないかと。

(委員)

- ・人材の確保については、教員からある程度は確保できるかと思うが、現状はみんな部活動を持っている。地域クラブと両方は無理。理想としてはよいが、今持っている部活動が全部なくなるとできない。

(会長)

- ・地域展開をした場合の先生の関わりとして、学校の先生としてではなく、1人のスポーツ好き、音楽好きといった地域の一社会人として関わることを示していく必要がある。

(委員)

- ・地域展開には中学生は専門的指導を受けられることに期待をしているが、学校の先生は人格を教えるスペシャリストであり、保護者は部活動にチームワークや社会性の形成をしてほしいと期待しており、今は先生がそれに応えてくれているという良い面がある。参加して下さる先生については、できるだけフレックスをしていただき関わってもらいたい。場所は学校を開放する等できるだけ移動のないほうが良い。

(委員)

- ・人材については、職務から離れて先生にやってもらうことになるが、得意な種目がある先生方に関わっていただかないと地域の方だけでは指導者の確保は難しい。

今後の検討課題について

(委員)

- ・受け皿の確保、財政の確保が大事になる。広い意味で合併したチームを作るには交通、医療機関の問題など、一つ一つ解決していかないといけない。短期間で解決するには難しい。中体連にも意見を聞かないといけないが、教員も参加してやりたい人もいる。その辺も共通理解をしながら一本化していかねばならない。メリットはたくさんあるがデメリットを細かくあげて解決していかねばならない。できるところからこまめにやっていけないといけない。

(会 長)

- ・参加費、指導料等については、何らかの形で意見書に表現していかなければならない。

(副会長)

- ・子どもたちのニーズにすべて応える環境を整えることは現実的に難しい。逆に、子どもたちのニーズに合うかわからないが、今できることでどのような選択肢があるかを提示していく。例えば、土日に学校や部活動のチームといった枠組みを外して集まって、それぞれの目的に合わせてチャレンジする場を提供する。その中で、子どもたちが自分で何をしたいのか、どんな関わりをしたいのか。また自分のしたいことができる場を自分で求めていく。そういったことを考えさせることも大事。現状の部活動をもとにしながら、まずはそこを考えていく。

(副会長)

- ・部活動で行っている全国大会に向けて活動をどうしていくのかと考えていくと、選択肢を狭めてしまう。そこは切り離して考えていく必要がある。

(会 長)

- ・どうしても「今の競技やコンクールに向けた部活動をどうするか」という話になりがちだが、学校教育として、異年齢で放課後に楽しむ根源的なクラブ活動のように工夫しながら行い、そこに教師がどう関わるのかといった学校の今後の取り組み方について、または、すべてにおいて手を引き学校の部活動をゼロにするのかも含めて議論していく必要がある。

(会 長)

- ・理想的なイメージを描きつつも、次に三木市の現状や資源を生かしてどういう活動の場があるのかを具体的に設定していく作業をしていくほうがよい。他市では今の部活動とプラス α 何かを考えていくところが多い。

(委 員)

- ・クラシックバレエ、和太鼓など、どこかでそういった活動に出会い、学校外でやりたい活動をしている子もいる。その中には学校の活動をやっていない子もいれば、文化活動もしたいと美術部に入っている子もいる。美術部でもピアノや音楽が好きで軽音楽部があれば入部して両方やりたいと思う子が出てくるかもしれない。身近にそういう場があればそこで子どもたちはやるかもしれない。中体連の場合は登録の壁があるので、野球かサッカー両方したいが一つだけしかできない。ゆくゆくはその壁が減っていくのではとも思う。イメージのゴールはこれで良いので、途中段階で今できることは何かを考えていけばよいのではないか。

(会 長)

- ・ポンチ絵のイメージは大きな問題はない。しかし、意見書はどのような内容で進めていけばよいのか。大きな方向性の中で、地域別、種目別、先生の休日での関り方など、いろいろなパターンが示されるとよいのかと思う。人材の確保、統括組織をどのようにしていくのか。行政としてどのようにまとめて、展開していくのか考えていかなければならない。

(会 長)

- ・事務局的に人材管理、ガバナンス、コンプライアンスの問題は必ず出てくる。どのようにしていくか、個々の団体任せではでは機能しないことが予見される。マッチング

もそうだし、市で管理していけるか。中学生という多感な時期の子を育成していく体制のイメージはできているか。

(事務局)

→まとめていくことは必ず必要だと考えている。登録という形を取りながら、協力者の把握をしていかなければならない。登録の形がどれだけ広がるかにもよるが、すべての団体において、市が関与できるかというのも難しい。まだまだ検討していかなければならない。また、学校の部活動指導補助員の方々の協力も受けながら、指導者についてもバンク登録といった形を取り、人材確保していく。

(会長)

- ・この体制で進めていく場合は、マネジメントする組織が必ずいる。あるいは今ある組織で、例えば、学校の部活動は教育委員会の学校教育課が所掌しているが、地域展開のこの体制となると生涯学習、社会教育となった場合に文化・スポーツ課が全て所掌していくのか、あるいは違う団体のようなものを作って考えていくのか、市として考えていく必要がある。移行期は両方の課で連携しながら作業を進めていかないといけないが、最終的にどうしていくのか考え、意見書に盛り込んでいく必要がある。
- ・都会では委託として業者にまかせる形が出てきている。あるいは総合型地域スポーツクラブに委託している市も出てきている。兵庫県では、スポーツクラブ21（総合型クラブ）が該当するが、そこだけが受け入れるというのは現実的ではない。
- ・お金をかけてやることも考えられるが、市としては、たくさんのかをしていきたいが、ここまでしかできないということはどこかで決断して、市民に伝えていく覚悟がある。市としてこれだけしかできないと大人が子どもたちにごめんなさいと謝るしかない。学校の先生の勤務外での協力と同時に市民のサークルへの協力依頼を具体的に展開していく必要がある。学校部活動のイメージで協力依頼されると地域の人はいかように丁寧には無理だとほとんど思われる。学校の部活動とはイメージが違うことを伝え、具体的にどのように協力して欲しいのか伝える必要がある。さまざまなイメージが広がっていくので、項目ごとに具体的に整理していく必要がある。

(事務局)

→イメージ像のようなことはすぐにできるものではないと考えている。今日いただいた課題をもう一度整理して、次回に示すことでそこからご助言をいただきたいと思う。

(事務局)

→人材の確保について多くの意見があった。次回どうしていくかを示していきたいと思う。人材を三木市として確保できるか、場所を確保できるか、財源を確保できるかというのは、市として子どもをどのように育成できるかという条件、環境に関わることだと思う。事務局としてはまとめることはできるが、何をめざしていくのかをご意見いただきたいと思う。

→トライやるウィークのシステムを参考にしながら考えていくこともできればと思う。

(副会長)

- ・イメージは共有できた。統括した組織はどうなんだ、というところはイメージに付け加える必要がある。人材、財源等、今何ができるかということを一覧の立場の方から議論して、子どもたちの環境づくりに生かしていけたらと思う。